



①先に製作したハイブリッド仕様ではエンジン高がありすぎて、アンダーカバーの角度がオリジナルと異なっていたが、ガソリン仕様では同一のフォルムとなっている。②美しい曲線で描かれるトヨタ2000GTのボディラインを忠実に描き出している。それがスーパーレプリカと呼ばれるゆえんでもある。



オリジナル同様、左右のサービスリッドは開閉可能。オリジナルは左側がエアクリーナーで、右側がバッテリーだが、R3000GTでは逆の配置となる。



モールは設計時にもつとも苦労をした部分の一つだという。何度も試作を繰り返し、質感にこだわって仕上げられている。



キャプテンマフラーを含め、2000GTと違わぬリアビュー。マフラーの音質、音量については、もう少し抑えめにしてもらうよう、特別に依頼をしているという。



R3000GTの製作販売を手がけるロッキーオート社長の渡辺喜也さん(右)から、クルマの説明を受けるオーナーの佐藤正芳さん。隣のクルマは、販売台数が世界限定50台といわれるレクサスLFAニュルブルクリンクパッケージだ。



③内装は、木目パネルが美しい2000GTオリジナルの雰囲気を踏襲し、仕上げられている。④ATのシフトレバーも上手くインテリアに調和している。サイドブレーキの解除は、シフトパネルから生えるステッキで行う。これも2000GTの特徴的な装備をうまく再現したものだ。



エンジンは3.0直列6気筒の2JZ-GE型を搭載。低回転から豊かなトルクを供給するパワーユニットのため乗りやすく、インジェクション仕様のため、気難しいこともない。

SPECIAL REPORT | #001 |



R3000GT

3度にしてやっとつかんだ「幸運」 気軽に乗って楽しめるスーパーレプリカ

生産台数わずか337台、日本を代表する名車「トヨタ2000GT」は、今や世界にその名が知られる存在。愛知県岡崎市のロッキーオートが製作するR3000GTは、そんな2000GTを忠実に再現したスーパーレプリカだ。本誌ではこれまで何度か、そのプロジェクトや完成車を紹介してきたが、今回は、このR3000GTを手に入れたオーナーに直接話をうかがうため、東京世田谷区のお宅を訪ねてみることにした。

PHOTO: RYOTA SATO/佐藤亮太(sakkas) TEXT: NOSTALGIC HERO/編集部

開発ドライバー兼デザイナーアシスタントとして、トヨタ2000GTの開発にもかかわり、その後のレース活動においても、チーム・トヨタのキャリアにおいても、活躍した細谷四方洋さんが監修を務めたR3000GTとなつた。このクルマは、トヨタ2000GTが開発されたロッキーオートが、今忠実に再現したスーパーレプリカだ。本誌ではそんなR3000GTの話題を幾度となく取り上げてきたが、今回は、実際に手に入れたオーナーに話を聞く機会を得ることができた。R3000GTのオーナーとなつた佐藤正芳さんは、東京・世田谷区在住。はじめとしたスタジオ事業や、オートバックス代官山店、代官山サービスステーションなどのカーライフ事業、さらにはT-SUTAYAやファミリートランなどのフランチャイズ店展開を行なうなど、いくつもの事業を展開する。若いころからクルマに親しみ、セリカやフェレディZ432などの国産車からポルシェやフェラーリなど、たくさんの中古車を乗り継いできた。そんな佐藤さんだが、2000GTだけは不思議と縁がなかつた。といつてもまったくなかつたわけではなく、今までに2度購入のチャンスがあつたそなたたのだ。ちなみに1度目は昭和50年ごろ。そのときは、Z432を購入してしまった。そして次が昭和57年ごろ。現車を確認する前に、急いで話を進めようとしたが、それでもタッチの差で買い逃してしまったそうだ。



SPECIAL REPORT #002

Rocky 3000GT 007 BOND CAR

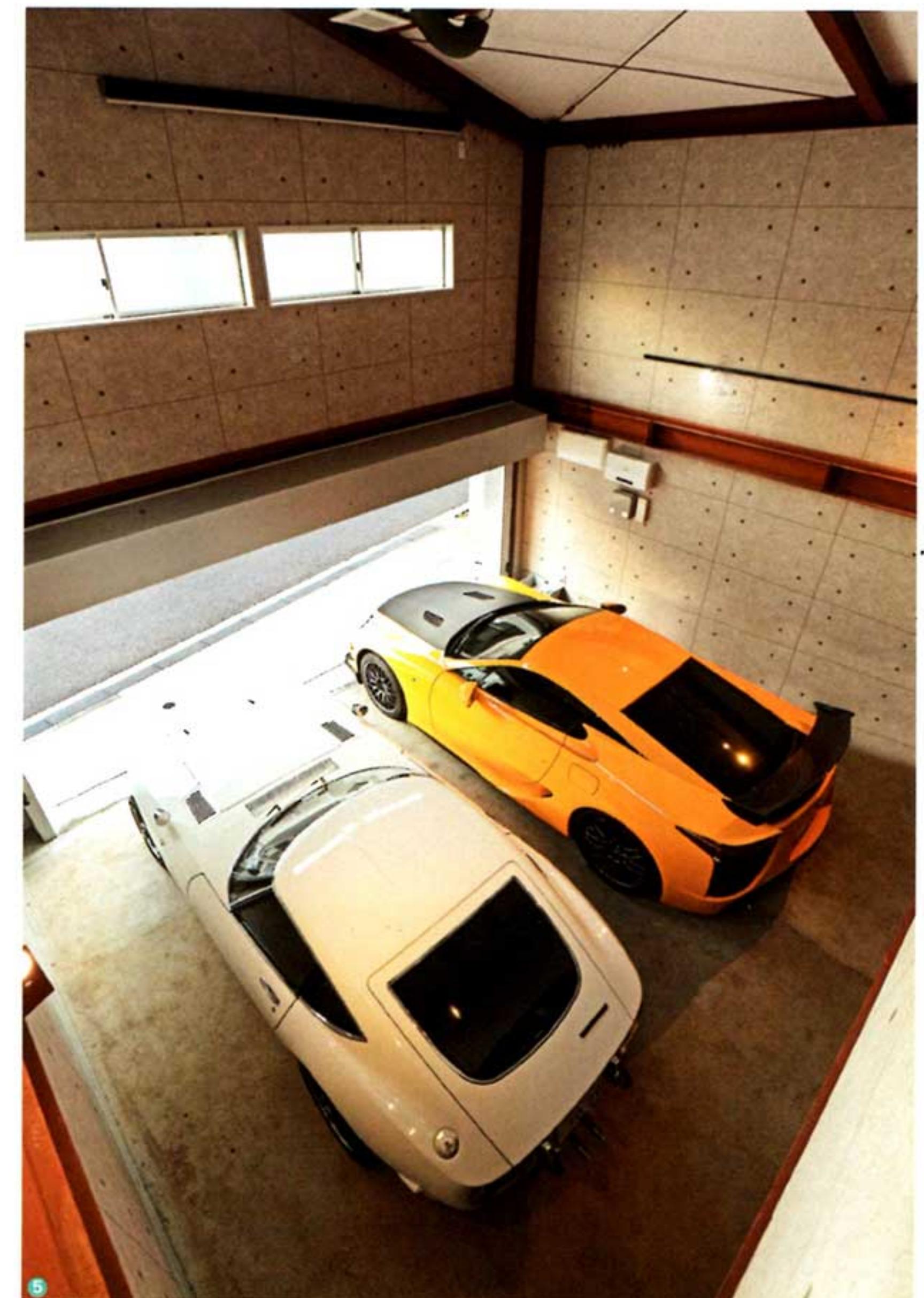
映画「007は二度死ぬ」に登場した 幻のトヨタ2000GTオープンを完全復刻!!

人気映画である「007シリーズ」のボンドカーに起用され、特別に製作されたトヨタ2000GTのオープンモデルは、日本の技術が世界に誇れるレベルにまで達した象徴でもあった。たった2台しか製作されなかったオープンボディ。まるでそれがオリジナルであるかのように美しいフォルムをまとった幻の名車が、50年の歳月を経てよみがえった。ファン待望の復刻だ。

TEXT : DAISUKE ISHIKAWA/石川大輔 PHOTO : HIROTAKA MINAI/南井浩季
LOCATION : THE GRAND TIARA OKAZAKI ザ・グランドティアラ岡崎 TEL0564-28-5777 <http://www.grandtiaraokazaki.com/>
COOPERATION : Rocky Auto/ロッキーオート TEL0564-66-54887 <https://rockyauto.co.jp/>



⑤佐藤さん宅のガレージに収まるレクサスLFAとR3000GT。2階からの眺めは、オーナーの佐藤さん自身がとても気にいっている景色。⑥世界限定50台(実際には60台ほどとも言われる)のLFAニュルブルクリンクパッケージと、まだ数台しか世に存在しないR3000GTという、おそらく世界唯一の希少な組み合わせ。⑦自宅ガレージを新築して、R3000GTの納車に備えた。後ろに見えるのは狭い都内で重宝するというスマート・プラス。さらにその奥には、ポルシェ・カレラ2(964)が鎮座する。



世界限定50台! レクサスLFAとR3000GTが収まる夢のガレージ



ステアリングを握り、メーター類を眺め、満足げな佐藤さん。オリジナルの2000GTを十分に知るオーナーを満足させるだけの質感が備わっているのだ。



操作系やスイッチパネルについての説明を受ける佐藤さん。こうした「儀式」をこなしていくことが、オーナーになったという実感を感じてくれる。



昭和の面影を感じさせる世田谷の住宅街に停車するR3000GT。そのたたずまいは、2000GTそのものといつてもいい。

は、現物も見ずに予約をしたという。なぜなら「幸運はその尻尾しか見せてくれない」というのが佐藤さんの持論だからだ。全体が見えるまで待っていては、機会を逸することになる。だから、今回もチケットを手に入れることができた。今、自分の決断は間違つていなかつたと改めて納得している。

実は佐藤さんは、2000GTオーナーの間では有名な存在である、自らの手で2000GTをレストアした。そのいところにこのR3000GTを見せて、「もう少しこっちのほうがよくできている!」と感心していたそうだ。そんなR3000GTの魅力について、あらためて佐藤さんに伺った。

「エンジンはインジェクション仕様で気難いところもありますし、3速ATも低速からトルクがあり非常に乗りやすいですね。パワーステアリングも付いてますし、ATもよくできていますから、狭い世田谷の街でも取り回しがやすく、気軽に乗ることができます。でも楽しくて本当に素晴らしいクルマです。実は納車後しばらく乗った後で少し気になつた部分について、ロッキーオートさんに調整をお願いしていきますが、とても誠実に、安心感のある対応をしていただいていますので、戻ってくるのが本当に楽しみです」

各部の調整が終われば、より完璧な仕上がりとなつたR3000GTが再び佐藤さんの元に戻つて来る。この本が発売されるころには、にこやかな笑顔の紳士が運転するR3000GTが、世田谷の街を颯爽と走り抜けていくことだろう。



細谷四方洋さん監修による スーパー・レプリカの神髄

「デザイナーの野崎喻さんが、ボディ外周をつなげるよう描いたラインを『野崎ライン』と呼んでいますが、それが重要です」と語る2000GTの開発チームの一員で、TEAM TOYOTAのキヤブテンを務めた細谷四方洋さん。スピードトライアルで世界記録を打ち立てたレジェンドで、R3000GTの監修も行っている。



③キャラクターラインを生かすようにルーフからリアゲート部をカットし、官能的なフォルムを実現したボンドカー。スーパー・レプリカではそのボディラインを忠実に再現している。④センター2本出しのキャブトンマフラー。ガラスやエンブレムなど細かいパーツもすべて製作されたものだ。エンジンやミッションなどの機関系は、現代のモデルから流用しているため、トラブルフリーで乗れるのも魅力。⑤特徴的なリトラクタブルヘッドライトまわりも忠実に再現。

Rocky Auto(ロッキー・オート)

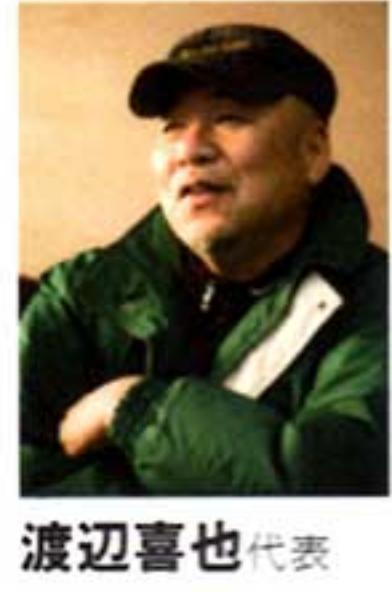
完全予約制を導入した圧巻のショールーム

〒444-0003 愛知県岡崎市小美町字殿街道153
TEL 0564-66-5488(受付時間10:00~19:00)
<https://rockyauto.co.jp/>



R3000GTを手がけた 名匠の新たな提案

「オリジナルを所有するオーナーさんが普段乗り用にR3000GTを購入するケースも多いです」という渡辺代表。オープンのボンドカーはその派生版として設定されたもので、強固なフレームを採用しているからこそ実現可能な安全性能と美しさの共存に徹底してこだわった究極の1台だ。



①ウインドーや幌カバーもボンドカーを忠実に再現。ハンドルの電動チルトアップ&ダウン機構も備え、乗降性を高める。集中ドアロックも装備。ATなので気負わず乗れるし、渋滞も苦にならない。②ズラッと並んだ7連メーターや木目調のインパネまわりも当時の雰囲気。



撮影時は純正のマグホイールを再現したアルミホイールを装着していたが、ボンドカーと同じワイヤーホイールも用意されていた。

ドカーレは、車体番号のないプロトタイプをベースに改造されたものだ。それも当然で、なにせ映画が撮影された1966年には、まだトヨタ2000GTが発売されていなかつたのだ。しかも、撮影の日程の都合上、わずか2~3週間という短期間でオープンボディ化することを余儀なくされたのだ。これを手掛けたのは現在のトヨタテクノクラフトの前身にあるたるトヨベックサービスセンターの綱島工場だ。もともとはクローズドボディであった試作車のルーフを取り払い、オープン化しても違和感のないフォルムになるよう、フロントウインドーを低いタイプに変更。トランクや幌のカバーを設けるなど、徹夜続々で仕上げられた。そして日本と海外での撮影用撮影車と予備という説もある)として、2台のボンドカーレがこの世に生まれたのだ。たった2台しか製作されなかつたボンドカーレは、まさに「幻の名車」と呼ばれるレプリカモデルとして製作されたのが、旧車カスタム界の名門として知られる「ロッキー・オート」だ。

0ccの2JZ型ユニットが搭載されおり、トルクフルでストレスのない走りが可能となっている。オートエアコンやパワーステアリング、パワーウィンドーなどの快適装備も追加されており、どんなシチュエーションでも快適にドライブが楽しめるのも魅力だ。旧車のデメリットを払拭し、本物以上の性能を手に入れたこのボンドカーレ、パワーリアリング、パワーウィンドーなどの快適装備も追加されており、これがそこにあ。美しいオープンボンドカーレは、身体を滑り込ませれば、気分はジ

ロッキー・オートの渡辺喜也代表が「スピードレプリカ」と表現し、胸をはる理由がそこにある。美しいオープンボンドカーレは、身体を滑り込ませれば、気分はジ

エームズ・ボンドだ。現代によみがえた幻の名車は、魅力にあふれている。

いわすと知れたスパイアクション映

画の名作「007シリーズ」。ジェーム

ズ・ボンドやグラマラスな美女たちが

描くスリリングな世界は、世界中の多

くのファンを魅了してきた。その5作

が舞台となり、ボンドカーとしてトヨタ2000GTが抜擢された。

ただし、出演には条件があつて、それ

はオープンモデルにすること。主役の

ショーン・コネリーが長身であつたた

め、素早く乗り込むことができないの

が理由のひとつであったといわれる。

映画の撮影に実際に使用されたボン

ドカーレは、車体番号のないプロトタイ

プをベースに改造されたものだ。それ

も当然で、なにせ映画が撮影された

1966年には、まだトヨタ2000

GTが発売されていなかつたのだ。し

かも、撮影の日程の都合上、わずか2~

3週間という短期間でオープンボディ

化することを余儀なくされたのだ。

これを手掛けたのは現在のトヨタテ

クノクラフトの前身にあるたるトヨベ

ックサービスセンターの綱島工場だ。も

ともとはクローズドボディであつた試

作車のルーフを取り払い、オープン化

しても違和感のないフォルムになるよ

うに、フロントウインドーを低いタイ

プに変更。トランクや幌のカバーを設

けるなど、徹夜続々で仕上げられた。そ

うして日本と海外での撮影用撮影車

と予備という説もある)として、2台の

ボンドカーレがこの世に生まれたのだ。

たった2台しか製作されなかつたボ

ンドカーレは、まさに「幻の名車」と呼ぶ

にふさわしい。これを現実的に手に入

れたのが、旧車カスタム界の名門として

知られる「ロッキー・オート」だ。

オリジナルに対してもどれほど忠実な

フォルムで造られているかは、前のペ

ージで紹介したR3000GTを見れ

ば分かってもらえるはずだ。美しいオ

ルムへのこだわりぶりやクオリティ

の高さは、本物と見まがうほど。

湾曲したフロントウインドーはボン

ドカーレと同様に仕上げられ、美しいオ

ーブンボディやリアフォルムも忠実に

再現された。今回は撮影に間に合わず

純正レプリカホイールを履いていたが、

これもボンドカーレと同じワイヤーホイ

ールを用意する徹底ぶりだ。

さらにこのレプリカモデルで特筆す

べきは、オープン化しても強度的な心

配が皆無であること。オリジナルのト

ヨタ2000GTと比べて約3倍とい

う強固なプラットフォームを採用する

R3000GTでは、ルーフを取り払

つても走行性能にまったく支障が出な

い。劇中のボンドカーレはXボーンフレ

ームに補強を施していないかったようで、

オリジナルのボディ剛性とは比較にな

らないほど高められている。

しかも心臓部には直列6気筒300

0ccの2JZ型ユニットが搭載されて

おり、トルクフルでストレスのない走り

が可能となっている。オートエアコン

やパワーステアリング、パワーウィン

ドーなどの快適装備も追加されており、

どんなシチュエーションでも快適にド

ライブが楽しめるのも魅力だ。

旧車のデメリットを払拭し、本物以

上の性能を手に入れたこのボンドカーレ

「ロッキー・オート」の渡辺喜也代表が「ス

イーピー・レプリカ」と表現し、胸をはる

理由がそこにある。美しいオープンボン

ドカーレは、まさに「幻の名車」と表現し、胸をはる

由がそこにある。美しいオープンボン

ドカーレだ。現代によみがえ

つた幻の名車は、魅力にあふれている。

Nostalgic Hero

The premier Japanese classic car magazine
ノスタルジックヒーロー

クラシックカーを愛する人へ

TOP ARTICLE ● 特集

情熱のスポーツユニット

Passionate for Sporting Powerplants

トヨタ2000 GT／ベレット1600 GTR／ダットサンブルーバード1300 4ドアスポーツセダン／
コロナマークIIハードトップ1900 GSS／スバル1000 2ドアスポーツセダン

Vol. 180

● 好評連載
ヒーローの棲むガレージ
コスモスポーツ専用の空間
グッドカー・グッドシーズン
トヨタスポーツ800
HOT CLASSIX
フルカスタムのPGC10
スカイラインGT-R
あの時代、あのクルマ
1968年編



● 注目記事

トヨタ2000 GT前期/後期ディテールチェック
13世代にわたる名車スカイライン60年の系譜
日本車の北米市場での躍進とアメリカ人の心情

● EVENT

ニスモフェスティバル at 富士スピードウェイ
歴代ロータリー車ミーティング2017 in マツダR&D横浜
JCCAニューイヤーミーティング ほか

2017 APRIL

4